

「2010年ソーシャルワークおよび社会開発に関する世界会議」レポート ーソーシャルワーク教育を中心にー

熊 坂 聡¹

2010年6月10日～14日にかけて、「ソーシャルワークおよび社会開発に関する世界会議」が香港で開催された。この会議は、国際的な福祉3団体が合同で開催している。筆者はソーシャルワークと教育の国際的動向を知るために参加したので、その内容の一部を報告する。この会議では、国際的な社会福祉のテーマとして「ソーシャルモビリティ」「移住労働者」「災害管理と環境変化」「再定住」など、幅広い社会問題を捉えていた。基調講演で沙氏は、国連が認識する社会問題にソーシャルワークは貢献できると指摘し、国連活動に深く関連していると強調した。ソーシャルワーク教育は、そのワークショップ抄録をKJ法で分析した結果、「ソーシャルワーク教育は、世界で発生する社会問題の中で活躍できる人材の養成に動いており、それを可能にする教育方法として情報通信技術を活用して地域の枠を越えた教育内容と方法の開発が進められている。」とまとめることができた。

Keywords：ソーシャルワーク、社会開発、貢献、ソーシャルワーク教育、人材養成、情報通信技術、実務、文化的隔たり、基準、国際経験

2010年6月10日～14日にかけて、2年に1回開催されるソーシャルワークおよび社会開発に関する世界会議が香港で開催された。この会議は、国際ソーシャルワーカー連盟(International Federation of Social Workers, IFSW) と国際ソーシャルワーク学校連盟(International Association of Schools of Social Work, IASSW)、および国際社会福祉協議会(International Council on Social Welfare, ICSW)の3団体が合同で主催する会議であり、今回は世界の110カ国以上から2500名を越える参加があった。会議では、世界的なレベルで取り上げられるべき社会的な問題と行動について議論された。日本からは、研究者を中心に100名近くが参加した。筆者は、ソーシャルワーク科目を担当する教員として世界的動向に触れると共に、担当するソーシャルワーク教育に活かしたいと思い参加することとした。本レポートは、この世界会議の中から社会福祉分野で注目されている問題の動向と、その活動を担う

人材養成を行なうソーシャルワーク教育の動向の報告を中心に、若干の考察を加えたものである。

I 世界会議の中から社会福祉の動向

1. 本世界大会が目している社会問題

大会開催要項から、大会のメインテーマとサブテーマを抽出し、本大会が捉えている世界レベルの社会問題を確認する。

(1) メインテーマ

「メインテーマのキーワードは『ソーシャルワークと社会開発』です。急速にグローバル化する社会における課題に立ち向かえるよう、今後10年間のソーシャルワークと社会開発に関する推進計画(アジェンダ)を私たちが集団としていかに設定しうるのか、ということが焦点となります」

ここで注目したいことは、「ソーシャルワーク」と「社会開発」を関連づけている点である。貧困や児童労働やジェンダーの問題などは対象者を保護すれば十分なのではなく、それを生み出してい

1. 宮城学院女子大学発達臨床学科

る社会に焦点を当て、その社会を否定するのではなく、「開発」の対象と見る点である。次に、「グローバル化する社会における課題」という点である。多くの場合「社会における課題」といった場合それは地域性の強いものであるが、情報機器や交通手段の発達の中で情報や物資や人の流れの国際化が進み、政治・経済の国際的相互依存が拡大し、社会や福祉の課題も国を超えて国際化してきているという状況が反映していると思われる。

(2) テーマについて

メインテーマを具体化するために本大会では3つのテーマと25のサブテーマを設定している。ここで分かることは、世界レベルの社会福祉関係団体が福祉活動の対象として捉えている社会問題の幅の広さである。

○ライフコースにおける課題と現実

<サブテーマ>

- ・児童福祉 ・青年期の発達 ・家族と結婚 ・女性とジェンダー ・活力ある高齢化と長期ケア ・メンタルヘルス

○平等と社会的包摂

<サブテーマ>

- ・教育と生涯学習、アセットビルディング (Asset Building、資産管理) とソーシャルモビリティ (Social Mobility、社会的移動性) ・雇用、移住労働者、ディーセントワーク ・貧困撲滅 ・多様性の容認と包摂
- ・逸脱とアディクション (Addiction、依存症) ・暴力、犯罪、人身取引

○持続可能な環境

<サブテーマ>

- ・グローバリゼーション、人口移動、経済的不安定 ・持続的な健康、社会的決定要因と不平等 ・災害管理と環境変化 ・シェルター、居住、都市/地方人口の再定住 ・コミュニティ開発、保護保全 (物理的、社会的、文化的) ・慈善活動、企業の社会的責任、パートナーシップ、社会資本、市民社会 ・利用者参加とセルフヘルプ運動 ・資

金融資と福祉計画 ・ソーシャルワーク教育における教育、学習及び実践の統合 ・伝統的、文化的差異に敏感なソーシャルワーク実践 ・感化とアドボカシー、専門的関与と専門職の価値 ・技術革新/科学技術/HUSITA (Human Service Information Technology Applications、人間のサービス情報テクノロジー・アプリケーション)

2. 基調講演に見る社会開発とソーシャルワークの関係

基調講演は、沙祖康 (Sha Zukang) 国際連合経済社会問題局事務次長によってなされた。2010年7月26日付で同大会参加者に郵送された「日本医療社会事業協会邦訳文書」から要約して紹介する。

沙氏は、本大会の主催団体と参加者が、「ソーシャルワークと開発分野の驚くほど幅広い専門分野を代表している」と述べて、参加している団体や人々の分野の広さが「今日存在する驚異的なレベルの貧困・社会的不公正・排除を縮小できるという希望を与えてくれる」と称賛している。次に沙氏は、2001年に国連で採択された「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goal、MDGs)」の中から8つのゴールを取り上げた。それは、「目標1：極端な貧困と飢餓を解消する」「目標2：初等教育を完全に普及させる」「目標3：男女平等と女性のエンパワメントを図る」「目標4：幼児死亡率を低下させる」「目標5：妊産婦の健康状態を改善する」「目標6：HIV/エイズ、マラリアなどの病気と闘う」「目標7：環境の持続可能性を確保する」「目標8：開発のためのグローバル・パートナーシップを構築する」であった。これらのゴールに照らして世界の状況を報告し、確実に進展している部分、残っている深刻な問題、増加している問題を具体的に指摘した上で、「21世紀の医学及びテクノロジーや国際的合意を得たゴールを実践するという政府の政治的意思、そしてソーシャルワーカー及び開発専門家の皆様のコミットメントがあれば、我々は貧困に

あえぐ人びとや権利を剥奪された人びとを支援し、彼（彼女）らの生活を根本的に変えるツールや人材をもっているといえるのです。」とソーシャルワークが責任を果たすことへの期待を述べた。

ここで押さえておきたいことは、国連の見方としては、ソーシャルワークがいわゆる福祉問題という範囲を超えて社会問題に取り組む分野となっている点である。しかし、飢餓に対する食料の生産そのもの、初等教育における教育そのもの、幼児死亡率を低下させるために必要な医療そのもの、妊産婦の健康管理そのもの、エイズなどの病気と闘う医療などそれぞれの専門分野が取り扱うべき内容は、ソーシャルワークの専門領域ではない。しかるに沙氏は、ソーシャルワーカー及び開発専門家の果たす役割に期待を寄せている。それは、それぞれの問題解決を側面的に支援すること、支援が必要な地域の理解を図る広報、必要とする地域に支援を提供する際の効率的効果的な提供のための調整などに、ソーシャルワークが機能することを期待していると思われる。

3. IFSW 会長の開会式挨拶の中にみる世界的な課題とソーシャルワークの関係

ここでは、日本ソーシャルワーカー協会会報第68号（通巻118号）に掲載された IFSW 会長が3団体の会長を代表して IFSW 会長が述べた挨拶文（岩崎浩三訳）の中から関連する部分を紹介する。

「・・・(前略)・・・『私は社会の安定が心配です。家族の間の問題、社会的紛争や暴力の増大が予測されます。そしてこれがソーシャルワーカーや社会福祉事業に対する需要の増大を導いているという実態がすでにあります。』と IFSW 会長デイヴィッド・ジョーンズは IASSW 会長、ICSW 会長とともに世界会議の開会式で述べました。・・・(中略)・・・会長たちは、『社会開発は地球規模の世界的相互作用を通じてのみ達成される』と述べ、これは取りも直さず、『あらゆるソーシャル

ワークは地域密着型である一方で、日々のソーシャルワークはいまや地球規模であり国際的なものとなるのが避けられないことを意味しているのです』と述べました。・・・(中略)・・・我々は、すべてのソーシャルワーカーが、地球の実情を反映した課題の作成に従事するようになり、国連その他の世界的組織や地域団体、ならびに国家政府その他団体の世界的主張と関与のための基盤を提供するようになることを望みます。・・・(後略)・・・

3人の会長は、社会の不安定が地球規模なので世界規模の「社会開発」が必要であり、そのためにはソーシャルワークが世界規模で展開される必要があると指摘する。各国の中で展開される福祉はそれぞれの国の事情を反映しながら進められるが、そういう日々のソーシャルワークもいまや国際的な問題との関連は避けられないというのである。

II ソーシャルワーク教育に関するワークショップからみえてくる教育の動向

127のワークショップが設定され、そのうちソーシャルワーク教育に関するワークショップが7つあり、報告抄録のある発表が75本であった。この中からソーシャルワーク教育の動向を探っていきたい。

1. 発表者の属性（国と発表件数）

抄録数75本の国別の分布は図1のようになった。最も多いのはアメリカの21本25.3%、次がイギリスの13本15.7%、オーストラリアの8本10.8%、以下香港・カナダと続いた。地域別に見ると、南北アメリカで27本（ただし南アメリカからは発表はゼロ）、欧州で27件、アジアで27本、その他2本となり、アメリカと欧州とアジアは同数となった。日本からの抄録は1本であった。

なお、抄録数は75本であるが、各国の大学等が合同で掲載している場合は、それぞれを計算に含めたので、掲載した数は83本となっている。

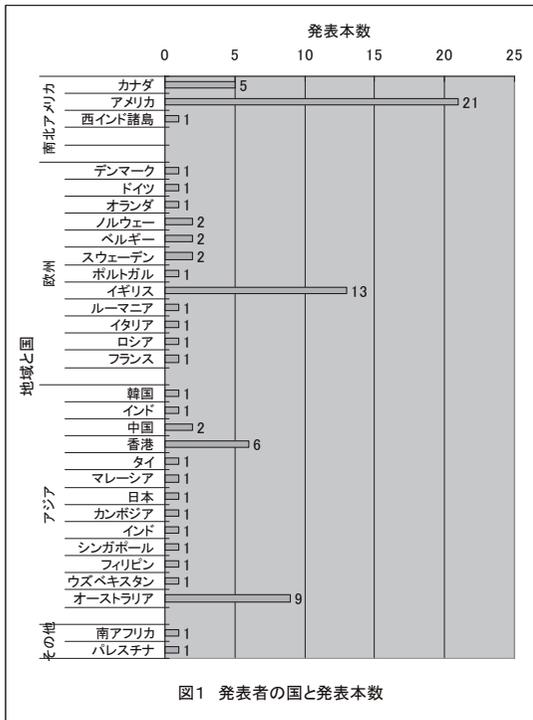


図1 発表者の国と発表本数

2. テーマによる分類

分類は、ソーシャルワーク教育に関するワークショップの報告抄録を翻訳し、その要約を作成した。その後は、KJ法の手法を応用し、焦点化した内容のカードを作成して、共通のテーマにカードをグループ化し、そのグループの関連からグループをまとめた島を作り、タイトルをつけて「KJ法によるインデックス図解」(図2)を作成した。以下はこの方法により抄録情報を要約したものの分類である。

(1) 国際的な舞台で活躍できる人材の養成をソーシャルワーク教育はいかに進めていくべきか。

①欧米で育ったソーシャルワークは全世界に効果的といえるか

このグループ(表1)には、ヨーロッパが第三世界のソーシャルワーク教育機関への協力をする

＜進展する社会の諸問題の国際化にソーシャルワーク(以下「SW」という)教育はどう対応し責任を果たしていくのか＞

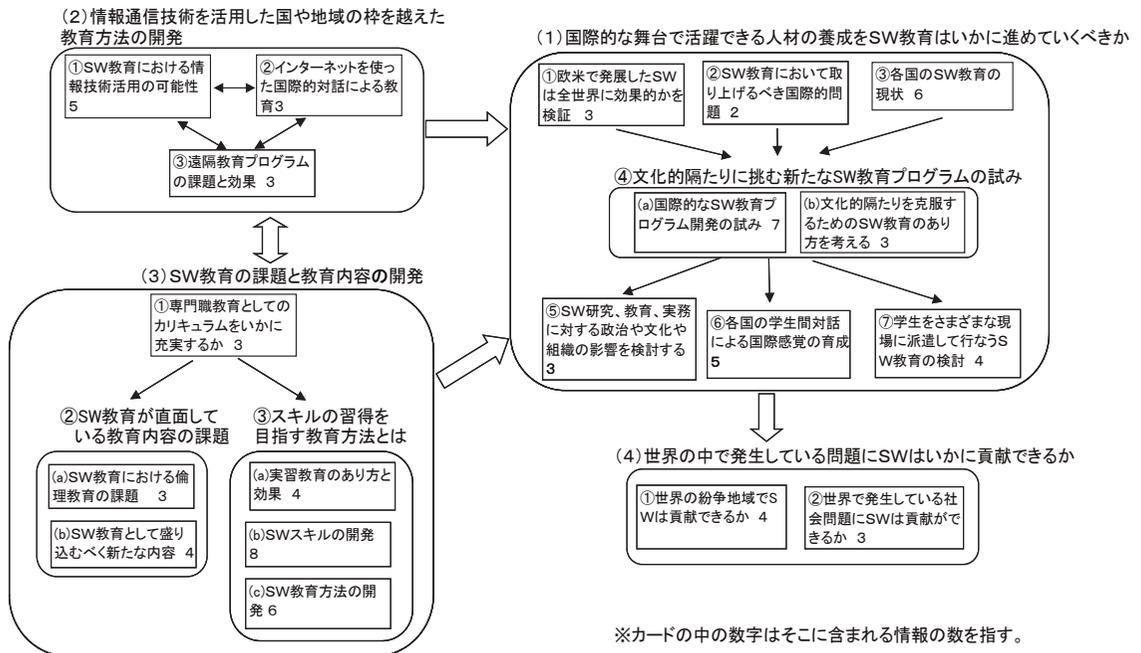


図2 KJ法によるインデックス図解

際に異なる文化に対する配慮が必要であるとの指摘 (1AA0025)、ソーシャルワークの強制的なヨーロッパ化に関する問題の指摘 (2EM0025)、ヨーロッパと第三世界における SW に関する教育機関間の協力には効果とリスクがあることを報告したもの (4TL0063)、を含めた。文化的背景をもって成長したソーシャルワークを異なる文化的背景を持つ国に持ち込む際には、価値観や伝統や文化に十分な配慮をすべきことを示唆している。

②国際的に注目される問題に対応するソーシャルワーカー養成のためのソーシャルワーク教育の必要性

このグループ (表 2) には、人間の持続可能性と世界平和を脅かす社会・経済・政治に関する国際的環境の改善を支援するソーシャルワークの必要性とそれを可能にするソーシャルワーク教育の提案 (4TL0062)、カンボジア NGO 職員がソーシャルワークの専門的アプローチの必要性を認識しているのでソーシャルワーク教育が必要であるとの指摘 (4TL0080)、を含めた。国際的に注目される問題にソーシャルワークの必要性が増す中で、ソーシャルワーク教育の専門性と訓練を拡充していく必要性を示唆している。

③各国のソーシャルワーク教育の現状

このグループ (表 3) には、中国における男女平等を目指した取り組みの紹介 (1WG0074)、南アフリカにおいてソーシャルワークに 10 の専門分野を設定したことの紹介 (4IT0074)、ロシアにおけるソーシャルワーク教育と伝統教育の統合による理論と実務を統合した教育内容の紹介 (4TL0027)、南アジアと東アジアのソーシャルワークの実態を調査した結果からその強化の必要性を指摘した報告 (4TL0065)、ナイジェリアにおけるソーシャルワーク教育の現状を調査し今後の展望を紹介したもの (4TL0132)、ルーマニアにおけるソーシャルワーク教育の現状報告 (4TL0144)、を含めた。以上は、ソーシャルワークの導入又は再興間もない国々のソーシャルワーク教育の現状報告であった。世界のソーシャルワーク教育内容は国の政治や社会的状況によって様々であると言える。

④文化的な隔たりに挑む新たなソーシャルワーク教育の試み

(a) 国際的なソーシャルワーク教育プログラムと教育方法開発の試み

このグループ (表 4) には、ソーシャルワーク

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
1AA0025 アメリカ、ライト州立大学 中国、IEI 大連交通大学	ジェネラリストとスペシャリスト教育のための中国・米国のソーシャルワーク教授人の交換
2EM0025 イギリス、リバプールホープ大学	ソーシャルワークのヨーロッパ化～実務の統合か。新自由主義のトロイの木馬か
4TL0063 イギリス、ヨーク大学	ヨーロッパと第三世界におけるソーシャルワークに関する教育機関間の協力について

表 1

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4TL0062 韓国、梨花女子大学	ソーシャルワークをどのように認識するか～カンボジアの NGO 従業員のためのソーシャルワークの専門的取り組み～
4 TL0080 アメリカ、インディアナ大学	持続可能な世界環境を支援することに関する教育機関の役割

表 2

教育が実務に臨む準備としては理論の活かし方と自己評価とプロとしてのアイデンティティが有効であるとの報告 (2EL0043)、自らの国の文化的ルーツをもちながら SW 教育の国際基準を達成することの難しさを克服するための取り組みに関する報告 (4IA0071)、インドのソーシャルワーク教育の有効性が現場活動とその指導によるものであることを明らかにし自国への応用を模索する報告 (4TL0008)、欧州で課題となっている社会的教育学の重要性の指摘と現状の報告 (4TL0068)、

海外の経験が価値変化や批判的省察や世界認識を変化させ世界に発生する社会問題に対する良心的な行動を高めることが示唆されたという報告 (4T10069)、卒業生の活躍を国際的に拡大するために人道的プロジェクトに従事するための教育をすべきであるという主張 (4TL0083)、調査によって世界で 2500 以上のソーシャルワーク教育プロジェクトが確認されたことから見えてきた懸念を指摘した報告 (4TL0089)、を含めた。世界各地でソーシャルワークをさらに機能させようと

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
1WG0074 中国、中華女子学院	ソーシャルワークと男女平等～中国における専門的な促進戦略～
4IT0074 南アフリカ、社会福祉専門職に関する南アフリカ評議会	提案された専門化に関する規則を含む専門化に関する基準
4TL0027 ロシア、ウラル州立大学	ロシアにおけるソーシャルワーク分野の教育：アカデミックな伝統と実務上の課題の間で
4TL0065 イギリス、ロンドン私立大学	南アジアおよび東アジアにおけるソーシャルワーク～現代までの発展の現状と課題～
4TL0132 イギリス、ヨーク大学、ブリティッシュコロンビア大学、クィーンズ大学	ナイジェリアにおけるソーシャルワーク教育および社会変化の可能性
4TL0144 ルーマニア、ブカレスト大学	ルーマニアにおけるソーシャルワーク教育～再生から20年

表 3

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
2EL0043 イタリア、ミラノピッコカ大学 スウェーデン、ヨーテボリ大学	ソーシャルワーク実務を効率的に行なうことについて～国際研究として～
4IA0071 カナダ ヴィクトリア大学	ソーシャルワーク教育に関する国際基準の開発
4TL0008 日本、吉備国際大学	インドのソーシャルワーク教育および現場研修プログラム～インドおよび日本の比較研究～
4TL0068 フランス、ブリュッセル外国語大学	ヨーロッパと世界における社会的教育学の重要性と状況
4TL0069 アメリカ、チューレーン大学	国際的ソーシャルワーク教育を背景とした学習の変革
4TL0083 アメリカ、テキサス汎アメリカン大学 アンドリュー大学	ソーシャルワークと世界の人道的労働市場
4TL0089 アメリカ、聖トーマス大学、ライアーソン大学、ヒューストン大学	世界のソーシャルワーク教育～IASSW2010調査の予備分析～

表 4

すれば、これまでの養成教育プログラムを見直し、新たな養成教育プログラムを開発する必要性を示唆している。

(b) 文化的隔たりを克服するためのソーシャルワーク教育が重視すべき価値とは

このグループ（表5）には、ソーシャルワークがイスラム文化と結合する必要性（4TL0058）、増加する移民を支援するために文化的隔た

りを克服するソーシャルワーク教育の必要性（4TL0079）、ソーシャルワーク教育において人種関連の問題を取り上げていく必要性（4TL0102）、を含めた。人びとの移動が世界規模で起きる現代において、様々な人種が混ざり合う社会状況の誕生と共に発生する問題に対処するため、ソーシャルワーク教育が文化的隔たりを取り上げていく必要性を示唆している。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4TL0058 フィリピン、フィリピンソーシャルワーカー協会	ソーシャルワークの実務におけるイスラムの結合
4TL0079 アメリカ、ニューヨーク大学	学生の臨床成績および文化的習熟の証拠からわかる評価
4TL0102 アメリカ、カリフォルニア州立大学	人種、階級、性別についての会話に関する MSW 生の全体像～ソーシャルワーク教育への示唆～

表5

⑤ソーシャルワークの国際的共通化の必要性

このグループ（表6）には、自国の過去十数年の博士論文を分析してソーシャルワーク研究に対する政治的影響の内容を明らかにしたもの（2EL0021）、ソーシャルワーカーの役割が組織によって大きく違っていたことからソーシャルワークの国際的基準化と専門職業性について疑問を投

げかけたもの（4IA0022）、ソーシャルワークについての大学間の国際的協力を行う際のさまざまな問題点を指摘したもの（4TL0151）、を含めた。世界に広がっていくソーシャルワークは、さまざまな影響を受けて多様な形になっている。ソーシャルワークの多様性と共通性の関係を整理し国際的に基準化していく必要性を示唆している。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
2EL0021 スウェーデン、ヨーテボリ大学	ソーシャルワーク研究の政治的影響と現実
4IA0022 スウェーデン、ルンド大学	ソーシャルワーカー～組織依存型の専門職～
4TL0151 ノルウェー、ボーデ大学	国際的な教育機関の連携について

表6

⑥各国の学生間交流による国際感覚の育成

このグループ（表7）では、カナダの大学で中国の大学生を招聘してソーシャルワークに関する対話を行ないその展開を分析した結果の報告（2EL0018）、ドイツとアメリカの学生が貧困に関する対話をスカイプ（インターネット電話サー

ビス）を用いて行なったところ学生は内省を深めることができたという報告（4IT0008）、シンガポールの大学とアメリカのミシガン大学の学生が情報通信技術を用いて比較政策学の課題に取り組んだところ文化・政治などの要因が政策に影響を与えることを確認したとの報告（4TL0044）、カ

ナダとインドの学生交換から共通の世界的背景と人間性および地域の現実と文化の違いを受け入れる公平な実践の在り方を学んだという報告(4TL0130)、ネットワーク上の国際的な仮想キャンパスを作って学習したところ異文化が混ざり合

うヨーロッパ社会に対応できる能力を獲得できたことの報告(4TL0180)、を含めた。国を超えた学生間の学習交流が試みられており、それによって学生の内省と国際的感覚と国際的に配慮すべき点があることなどが確認できる。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
2EL0018 カナダ、マウントロイヤル大学	誰が時間を計算しているのか
4IT 0008 アメリカ、聖スコラスチカ大学 ドイツ、応用科学大学	自由教育～米・独のソーシャルワークを学ぶ学生の間において貧困について批判的に思考することを可能にするテクノロジーを用いた教育モデル～
4TL 0044 アメリカ、ミシガン大学 シンガポール、シンガポール大学	シンガポールおよび米国におけるソーシャルワークコースで学ぶ学生の学習を促進するためのテクノロジーの活用
4TL0130 カナダ、レニソン大学 インド、ウォータール大学	カナダとインドの学生交換の効果
4TL0180 オランダ、Inhollando 応用科学大学 ノルウェー、ベルゲン大学	ネットワーク上での社会事業の学習指導～国際的な仮想キャンパスの開発～

表 7

⑦学生を世界の現地に派遣して行なうソーシャルワーク教育の検討

このグループ(表8)では、学生の国際的なインターンシップ経験による異文化交流の効果を報告したもの(2ED0032)、アメリカとカナダの学生をエチオピアに派遣して現地教育上の課題(現地指導の問題や関係者の役割、テクノロジーの活用、大学教授陣の役割、カリキュラム問題、必要な訓練、現地大学との協力関係のあり方など)を

報告したもの(4TL0002)、カナダとEUの学生を難民プロジェクトの現地研修に参加させての成果と評価を報告したもの(4TL0021)、イギリスの学生をウガンダのエイズ支援機構に短期実地研修に派遣した結果として多様な文化社会に対する認識を深めたという報告(4TL0040)、を含めた。国際的な現地経験を組み込んだ教育が行なわれており、これによって国際感覚など多くの成果があがっていることが確認できる。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
2ED0032 ベルギー、ルーベン大学	存在なくして干渉なし
4TL0002 アメリカ、イエシー大学	分断された世界における学生の現地指導者～実地教育における宗教を超えた国際協力～
4TL0021 カナダ カールトン大学、カルガリー大学	コーディネーター及び学生の観点からの国際的なソーシャルワーク訓練に関するプロジェクトの評価について
4TL0040 イギリス、キングストン大学	ソーシャルワーカー研修生のための国際的実地研修～TAS0(エイズ支援機構)ウガンダパートナーシップ～

表 8

(2) 情報通信技術を活用した国や地域の枠を越えた教育方法の開発

① ソーシャルワーク教育における情報技術活用の可能性

このグループ（表9）には、インターネット上のホームページを活用した学習・コミュニケーション・指導の紹介と成果報告（4IT0003）、ブログ・ウィキ・ポッドキャスト・スカイプ・iフォン・フェイスブック・マイページなどの情報技術の活用による学習成果の報告（4IT0010）、福祉サービスに使用可能なテクノロジーの紹介

（4IT0025）、他業種・他職種間のケーススタディ教材として開発したオープンアクセスオンラインマルチメディア学習システムの紹介（4IT0035）、移民の文化的隔たりを克服するための教育方法としてマルチメディア教材を活用することの有効性の報告（4TL0079）、を含めた。なお、このグループの報告に欧米以外の国からのエントリーはなかった。情報通信機器が開発され、社会的にも普及してきたことから教育手段としての活用可能性が拡大し、欧米では教育カリキュラム上での情報通信機器の活用方法の開発が進められていることが確認できる。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4IT 0003 オーストラリア クィーンズランド技術大学	収束技術・モバイル技術の統合～ソーシャルワーク教育、実践、人間発展に関わる可能性と課題～
4IT0010 デンマーク、ジールランド大学	学習、コミュニケーション、指導の手段としての講師のホームページ
4IT 0025 アメリカ、ノースタゴタ大学	福祉分野において会議・トレーニング・サービス配信に関する低～中程度のコストで可能なテクノロジーの活用
4IT0035 イギリス ボーンマス大学、西イングランド大学	マルチメディア資源へのオープンアクセスの開発における協力と交渉の過程について
4 TL0079 アメリカ、ニューヨーク大学	学生の臨床成績および文化的習熟の証拠からわかる評価

表9

② インターネットを使った国際的対話による教育

このグループ（表10）には、スカイプを使ってアメリカとドイツの学生対話を行なったところ学生の内省を深めカリキュラムの国際化に効果的であることを実証した報告（4IT0008）、インターネットベースの学習教材を含むマルチメディア教材の開発とその有効性の報告（4TL0079）、欧州各国の学生が集まったコミュニティワークコースでネットワーク上での学習環境を作った行った国際的仮想キャンパスの開発に関する報告（4TL0180）、を含めた。インターネットを活用することで国際的な学習環境を設定できるようになり、新たな教育方法が可能になっている。

③ 遠隔教育プログラムの課題と効果

このグループ（表11）には、遠隔教育における教育側の課題を指摘した報告（4IT0018）、テクノロジーを用いて実務に接近する教育方法の学習効果に関する報告（4TL0057）、地理的な障害を克服して行なわれる修士課程教育の考え方と教育器材の評価および今後の展望についての報告（4TL0137）、を含めた。いずれもアメリカからのエントリーであり、広大な土地を有し、情報通信技術が発達した国の中で通学という形態が取れない環境の中での教育形態として遠隔教育方法の開発が進められている。これは国際的にも可能性を持っているのではないかと。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4IT 0008 アメリカ、ドイツ 聖スコラスチカ大学、応用科学大学	自由教育～米・独のソーシャルワークを学ぶ学生の間において貧困について批判的に思考することを可能にするテクノロジーを用いた教育モデル～
4TL0079 アメリカ、ニューヨーク大学	学生の臨床成績および文化的習熟の証拠からわかる評価
4TL0180 オランダ、Inholland 応用科学大学 ノルウェー、ベルゲン大学	ネットワーク上での社会事業の学習指導～国際的な仮想キャンパスの開発～

表 1 0

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4IT0018 アメリカ、ハワイ大学	遠隔教育における双方テレビを用いて教授する側の課題
4TL0057 アメリカ、ミシガン州立大学	ソーシャルワーク教育における実務へのテクノロジーを用いたアクセス方法と品質の向上
4TL0137 アメリカ、テキサス大学	地理的な障害の克服

表 1 1

(3) ソーシャルワーク教育の課題と教育内容の 開発

① ソーシャルワークの専門職教育のためのカリキュラムをいかに充実するか

このグループ(表 1 2)には、ソーシャルワーカーが専門職業化していく過程に個人的な人生の中での学びを反映させるべきだという指摘(2EL0045)、アメリカにおけるソーシャルワーク教育プログラムの認定体制に関する報告(4IA

0072)、世界中のすべての状況に応用可能な中核的なソーシャルワーク実務能力を育成するカリキュラムについての検討結果報告(4TL0011)、を含めた。ソーシャルワーカー養成教育は、実はさまざまに行われており、どれが基本的で共通の専門職養成教育なのか、つまりプロ性と実務能力を養成する中核的な教育が確立されていない中で、その基準となるようなカリキュラム探求の経過が報告されている。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
2EL0045 ポルトガル、レイリア技術専門学校	ソーシャルワーカーの専門家としての創生のプロセス
4IA 0072 アメリカ、ソーシャルワーク教育に関する協議会事務局長	ソーシャルワークプログラムの認定に関する米国の体制
4TL0011 ベルギー ソーシャルワーク教育に関する協議会常任理事、カトリック・ホゲスクールケッペン校	ソーシャルワークの実務における中核的原理～欧米の視点～

表 1 2

②ソーシャルワーク教育が直面している教育内容の課題

(a) ソーシャルワーク教育における倫理教育の課題

このグループ（表13）には、日々の実践と理念を一致させるための倫理実践の枠組みの提案（4TL0003）、異なる学問分野にまたがる職業

倫理に関する教育の試みから得たものの報告（4TL0054）、倫理的問題に際しての学生の立場に関する調査結果の報告（4TL0055）、を含めた。現場のソーシャルワーカーを悩ませる倫理問題に対応できるようになるための倫理基準の模索と教育のあり方が探求されている。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4TL0003 イギリス、キングストン大学	倫理実践の促進～悪環境における道徳的行為者性～
4TL0054 オーストラリア、グリフィス大学	倫理ジグソー～学際的な職業倫理教育の開発～
4TL0055 オーストラリア、グリフィス大学	ソーシャルワークにおける倫理教育

表13

(b) ソーシャルワーク教育に求められる時代的社会的要請への対応

このグループ（表14）には、公共部門の福祉事業スタッフのリーダーシップとプロフェッショナル化の促進のための戦略の提案（4IA0012）、ソーシャルワーク教育における一般教育と専門教育の混乱に対して専門的役割を果たすには広く深い知識とスキルが必要であると指摘した報告（4TL0047）、ソーシャルワークを学ぶ学生に対す

るリーダーシップに関する単元を立ち上げて授業した体験の報告（4TL0060）、認知症に関する学生の知識調査から認知症ケアに関する訓練を多くすべきであるとする指摘（4TL0081）、を含めた。教育内容の提案には、その国の時代的社会的要請がある。今回の報告からは、公共部門スタッフのプロ化、ソーシャルワーク実践に際してのリーダーシップ、専門的役割を果たすための広く深い知識とスキルの必要性が指摘されている。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4IA0012 アメリカ、全国SW協会・SW教育組合役員	公共部門の福祉事業スタッフのリーダーシップとプロフェッショナル化の促進
4TL0047 イギリス、サセックス大学	ソーシャルワーク教育は一般的であるべきか、専門的であるべきか
4TL0060 オーストラリア、グリフィス大学	ソーシャルワークにおけるリーダーシップ教育
4TL0081 香港、香港中文大学、ジョーキークラブ高齢化研究所	香港における社会福祉を学ぶ学生の認知症に関する知識

表14

③ソーシャルワークスキルの取得を目指す教育方法とは

(a) 効果測定から導き出す実習教育の工夫

このグループ（表15）には、イギリスの地方

学校で行った実地研修を通して学校でもソーシャルワークの学びができるとした報告（4TL0051）、オーストラリアの学生が香港で行った実地研修後の質問形式による経験と知識の再構成過程の

報告 (4TL0061)、オーストラリアにおける 36 時間の現場実習指導者研修会の内容と成果の報告 (4TL0093)、学生と実習指導者のやり取りの過程を分析して実習に与えている影響を報告したもの (4TL0113)、を含めた。実地研修が学生に体験と

考える機会を提供するが、それを教育目標の達成につないでいくためには実地研修に意図的な組み立てが必要であり、また、学生の多様な体験から学びを明確にしていくためには教育方法の工夫が求められることが示唆されている。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4TL0051 イギリス カンタベリーキリスト教会大学	子どもの権利と福祉を促進するためのソーシャルワークの学習について～学校におけるソーシャルワークを学ぶ学生の実習の可能性～
4TL0061 オーストラリア、グリフィス大学	福祉現場における学生指導を構築する～複数の質問をしながら会話を行う方法～
4TL0093 オーストラリア ニューサウスウェールズ大学	効果的な管理を行なうことによる現地での学習について
4TL0113 オーストラリア、シドニー大学	実地教育管理～深く効果的な学習の促進～

表 1 5

(b) ソーシャルワークにおける専門的スキルの開発

このグループ (表 1 6) には、事例を用いたグループワークの教育効果の報告 (2EL0051)、機関実習として 100 日間派遣して実際に家族支援に当たさせた結果の報告 (4TL0014)、解決志向療法の活用方法の検討結果報告 (4TL0026)、深生態学の 8 つの基本原則ならびにソーシャルワーク実務への応用の可能性を探る報告 (4TL0031)、ソーシャルワークの教員がアカデミックな能力を強化するだけでなくソーシャルワーク資質を開発し続ける必要があるという指摘 (4TL0041)、ソーシャルワーク調査研究における適合設計方法 (Tailored Design Method) の効果に関する報告 (4TL0050)、根拠に基づく研究方法 (定性的研究手法と定量的研究手法の統合、調査質問の作り方、実務研究の特性の理解、学習方法の積極的利用、研究プロジェクトの規定とポスター発表、研究ツールの熟達に関する訓練の 6 項目) の効果に関する報告 (4TL0066)、HIV 患者に対するアートセラピーの概要報告 (4TL0096)、を含めた。各教育機関では、専門性と実務能力の向上を図るスキルの開発を進めている。

(c) ソーシャルワーク教育方法の開発

このグループ (表 1 7) には、学生が子どもや若者とのコミュニケーションのとり方の学習過程に関する研究成果の報告 (1CW0067)、1 年次学生に対する意識調査をオリエンテーションや教育の強化に反映させる方法に関する報告 (2EL0019)、論文や事例検討に関する学習の中で長く同じ小グループに在籍する場合とそうでない場合のグループ学習の効果についての報告 (4TL0105)、ソーシャルワークと社会政策を学ぶ学生の経験を向上させるための学習モデルの提案 (4TL0116)、ソーシャルワークを学ぶ課程の学習開始前と開始後の学生の変化に関する調査をした結果大きな効果が確認されたという報告 (4TL0140)、ソーシャルワーク教育コースを実務に適合させることに関する研究指導状況を監査したところ時間とスタッフのスキルと資源の不足により教育すべき中核的部分への関わりが薄かったことの報告、を含めた。実務能力を高めるための教育方法の調査・検証・開発が進められている。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
2EL0051 マレーシア、マレーシア理科大学	グループワークを指導する際の知識、スキル、ソーシャルワークの価値の適用について
4TL0014 アメリカ、ハル大学	高等教育機関内の実践団体
4TL0026 香港、香港バプテスト大学、 シンガポール、シンガポールマネジメント大 学	解決志向療法で分からなかったことは何か？解決志向療法における介入の段階を示す6R（Resistance, Release, Re-focus, Research, Regenerate, Reassure）モデルを用いて
4TL0031 アメリカ、ワイオミング大学	ソーシャルワーク実践に対する深生態学理論の適用
4TL0041 香港、香港市立大学	ソーシャルワーク教育における要素の研究
4TL0050 カナダ、西部オンタリオ大学	ソーシャルワーク調査研究における有効回答率問題および（調査対象の）代表性について
4TL0066 香港、香港大学	ソーシャルワークを学ぶ学生への根拠に基づく研究方法を教授する
4TL0096 アメリカ、ノースカロライナ大学	エイズと向き合う～MSW生（修士課程でソーシャルワークを学ぶ学生）のアートセラピープロジェクト～

表 1 6

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
1CW0067 イギリス、サセックス大学	子どもや若者とのコミュニケーションの効果的なとり方の開発
2EL0019 オーストラリア、グリフィス大学	ソーシャルワーク教育プログラムの導入に際して～学生の経歴との関係で～
4TL0105 香港、香港大学	PBL チュートリアルによる小グループの学生の学習経験の効果について
4TL0116 イギリス、サウサンプトン大学	英国におけるソーシャルワーク教育における学生の経験を増やす
4TL0140 香港、香港大学	ソーシャルワークを学ぶ学生に自ら考える能力を育てる～自己を知り、自分を取り巻く世界を知る課程に関する評価と研究～
4TL0152 イギリス、ストラスクライド大学	ソーシャルワークにおける研究指導のあり方について

表 1 7

(4) 世界の中で発生している問題にソーシャルワークはいかに貢献できるか

①世界の紛争地域でソーシャルワークは貢献できるか

このグループ（表 1 8）には、ウズベキスタンとカンボジアの紛争後のソーシャルワーク実務と教育の発展を報告したもの（4TL0013）、パレスチナ占領地域におけるソーシャルワークリーダー養成プログラムを開発して用いたところ効果があったという報告（4TL0074）、ソーシャルワーカ

ーが世界の紛争地域で活躍する機会が多いことを踏まえて紛争時のソーシャルワークのあり方を学ぶ教育カリキュラムを紹介したもの（4TL0111）、社会政策を学ぶ教育課程で行われた社会政策に関する調査の結果として理論と実践を結びつける重要性を指摘した報告（4TL0159）、を含めた。世界の紛争地域や社会開発が必要な地域においては、崩壊または未成熟な社会の中でソーシャルワークが果たすべき役割が多様であり、そういうソーシャルワークを担うことのできる教育内容の開発の重要性が示唆されている。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4TL0013 イギリス、アングリア・ラスキン大学	平時のソーシャルワークカリキュラムの作成に向けて～政治紛争時のソーシャルワークの国際的観点から学ぶこと～
4TL0074 イギリス、キングストン大学 パレスチナ、ヒルゼイト大学	パレスチナ占領地域におけるソーシャルワークリーダー養成プログラムを用いたプロとしてのアイデンティティと実務の開発
4TL0111 アメリカ、ワシントン大学、子どもの社会的 適応に関する共和党センター カンボジア、プノンペン王立大学 ウズベキス、タンティールサイド大学	紛争終結からの移行期における紛争後社会的正義～ソーシャルワーク実務と教育に促進に関するケーススタディ2例～
4TL0159 英語を公用語とする 17 の国 西インド諸島大学	社会政策を考える～ソーシャルワークにおける社会的発展のカギ～

表 1 8

②世界で発生している社会問題にソーシャルワークは貢献できるか

このグループ（表 1 9）では、ルワンダにおけるエイズ感染者に対する支援カリキュラムの開発と指導者養成の成果を報告したもの（4IT0024）、インドにおけるがん予防プログラム普及の結果予防と制御に関する知識と認知が向上したという

報告（4TL0125）、タイにおける社会問題（人種、階級、性、異性愛など）にソーシャルワークが力を発揮できるようなソーシャルワーク教育の提案（4TL0154）、を含めた。世界各国の文化的政治背景をもって発生している固有の社会問題に対し、ソーシャルワークが貢献できることを示唆している。

ワークショップ番号 発表者国、所属機関	タイトル
4IT0024 アメリカ、チューレーン大学	ルワンダにおける HIV/エイズ感染者の心理社会的ケアを支援するためのカリキュラムの開発およびその技術を用いた指導者の養成
4TL0125 インド、NBKR 大学	腫瘍学ソーシャルワーク～インドにおけるがん予防プログラム～
4TL0154 タイ、タマサート大学	タイにおけるソーシャルワーク教育での批判的教育学の実情、課題と展望

表 1 9

(5) ソーシャルワーク教育に関するワークショップの KJ 法によるまとめ

KJ 法によって分析してみると、75 本の抄録は 4 つの島（一定の共通性もったグループの固まり）に集約できる。核になる島は「(1) 国際的な舞台で活躍できる人材の養成をソーシャルワーク教育はいかに進めていくべきか」であり、それを支援する島が「(2) 情報通信技術を活用した国や地域の枠を越えた教育方法の開発」と「(3)

ソーシャルワーク教育の課題を教育内容の開発」であり、そのようなソーシャルワーク教育が貢献すべき対象が最後の島「(4) 世界の中で発生している問題にソーシャルワークはいかに貢献できるか」につながっていく。

Ⅲ 考察

ここでは、報告の要旨とは別に、ワークショップの抄録の中から、使用頻度の多いキーワードを

抽出してソーシャルワーク教育の注目点を探ってみたい。キーワードは、1つの抄録に複数回記載されていても1つとして計算した。なお、1つの抄録から違うキーワードを複数抽出している場合もある。

「情報通信技術」に関連するキーワードは14の抄録から抽出された。その中身は、スイカイク、フェイスブック、メール、インターネット、ライブチャット、オンラインツール、双方向テレビ、ホームページ、ブログ、ポットキャスト、iフォン、e・ラーニングなどである。情報通信技術が発達したことにより、情報収集が容易になり、意見交換がしやすくなったことが教育内容の充実につながっている。遠隔教育の可能性が拡大し、ネット上での学生間の対話ができる、指導もネットやメール上で可能になったことで教育方法は大幅に変革される可能性がある。国際的なソーシャルワーク教育のために行われる現地研修においても情報通信機器を活用することで教育の可能性が拡大している。

「実務」というキーワードは14の抄録から抽出された。ソーシャルワーク教育をいかに実務に反映させることができるかという点に注目が集まっている。紛争地域、エイズなどの社会問題のある地域、ソーシャルワークが未発達な国、社会自体が未成熟な地域などに入って行われるソーシャルワークにおいては、特定の問題だけではなく、社会づくり全般に機能することが期待されている。そのため、ソーシャルワーカーは広い領域で具体的にできることが問われている。つまり、ソーシャルワーク教育は実務能力の習得ができるかという点を問われている。

「文化」「伝統」「人種」を1つのグループにするとキーワードは13の抄録から抽出された。自国の学生が外国の学生と対話する場合、紛争地域などの現地でソーシャルワーク体験をしようとする場合、新たにソーシャルワークを自国に導入しようとする場合、ソーシャルワーカーは文化的隔たりに遭遇して少なからず困っているようである。しかし、強引に導入して現地の文化や伝統を壊し

てしてはならないことが各報告の中でも指摘されている。国際的なソーシャルワーク展開においては十分に配慮すべき点と思われる。現地に拒否されないために、ソーシャルワークが現地対応型に柔軟に変化していく必要はあるが、ここにもう一つの注目すべき事柄が発生する。それは次のキーワードであるソーシャルワークの国際的な「基準・標準」の問題である。

「基準・標準」というキーワードは10の抄録から抽出された。ソーシャルワークに対して広く役割が期待され、それぞれの地域の政治的文化的事情に影響されてソーシャルワークが多様に変化していくことは社会事情に柔軟に対応し機能しているともいえる。しかし、反面ソーシャルワークの専門性や国際的基準はどうなっているのかという疑問が残る。この点は、国際的な舞台の方がより強く意識されていくようである。

「国際経験」というキーワードが6の抄録から抽出された。問題が発生している外国の現地を経験することで、学生は国際的な問題に目が開かれていく。こういう教育プログラムが欧米で多く行なわれているとすれば、国際的舞台上で活躍する人材が欧米を中心に輩出してこることも納得できる。日本のソーシャルワーク教育の国際化が課題であるともいえる。

次に、同じ国際化というテーマの範囲で「国際的対話」というキーワードが6の抄録から抽出された。これは、海外の学生との対話や交流の機会が設定されるようになってきているということである。この対話は、交流自体で国際的視点を開いてくれるし、学生に自国をみているだけでは分からない国際的な諸問題にも気づかせてくれる。ソーシャルワークが対象とすべき問題が国際化している現状に対して、ソーシャルワーク教育が取り組むべき方法の1つである。

IV 本研究レポートの限界と今後の課題

本研究レポートは、今回の世界会議の資料の範囲で行ったものである。したがって、世界のソー

ソーシャルワークの課題と教育の全体を反映しているわけではない。また、ソーシャルワーク教育に関しては、ワークショップに参加しての感想を踏まえているとはいえ、抄録からの要約と分析であるため、具体的な研究内容と成果は把握されておらず、ワークショップの内容の整理としても不十分である。この研究レポートが達成していることは、ソーシャルワークとその教育の国際的動向の一部を把握したというに過ぎない。それにしても、この世界会議の一端を整理してみて、特に国際的なソーシャルワーク教育の内容と方法の動向を知ることができた。ソーシャルワークと教育の国際化の動向は、本学におけるソーシャルワーク教育にも反映させていく必要があり、今後も私自身が国際的な経験を重ねて見識を広め、国際的動向を理解していく必要がある。以下今後の課題について若干触れておきたい。

(1) 情報通信技術を活用した教育方法が世界的には展開されつつあり、教育効果もあがっていることを踏まえれば、国際的に連動した情報通信技術を駆使した教育内容と方法の開発をしていく必要がある。

(2) ますます国際化していく社会に生きることになる学生に、福祉分野からも国際的感覚を育てていく必要がある。その中では、国内に居ては意識することが弱い「文化的隔たり」について十分に教育上の配慮をし、そのことを通して「人権」を学ぶ機会とする必要がある。

(3) 外国人労働者や外国人花嫁など日本国内に定住する外国人が増えていく中で、日本に居ても社会問題が国際化してきているのであるから、国際的な社会問題を教育内容として取り上げていく必要がある。

(4) 国際的な舞台では、ソーシャルワークが実務に機能することが求められていることを考えれば、ソーシャルワーク教育はもっと実務に反映されるものとして行われていく必要がある。

後記

本研究レポートの基礎資料となる抄録の翻訳については伊藤智子さんに全面的な協力をいただき、抄録の要約は筆者が行った。伊藤さんに心より感謝申し上げる。2010年6月に開催された世界会議のまとめが2012年になってしまい、公表の適時を逸していることについては反省している。

参考文献

- (1) 2010年香港大会のお知らせ（日本社会福祉教育学校連盟），
http://www.jassw.jp/international/pdf/1000319_01.pdf.
- (2) 「2010年合同世界大会」沙祖康（Sha Zukang）による基調講演（日本社会福祉教育学校連盟邦訳），
http://www.jassw.jp/international/100802_01.html.
- (3) 日本ソーシャルワーカー協会会報第68号（通巻118号）2010年8月.
- (4) "2010 Joint World Conference on Social Work and Social Development: The Agenda Abstract Book".